

富士紀行 (13) 小山町・須走の祭り と 富士学校 (H13/8/30 記)

須走には既に秋風が吹き始めたのか。ススキの穂が白味を増したようだ。

祭りとマツリゴトには非常な関連がある。祭政一致の時代は勿論、祭りはマツリゴトそのものであったけれども、時代を経た現代でもその要素は残っているといえよう。

須走の祭りは富士浅間神社に関わる祭りが中心であり、祭典執行の役員は村の中核にある人々が大きな役割を果たし、これらの人々は一方では村の政治の責任者でもある。須走の神社役員は現役を退いた人々の役割ではなく、今日尚村の長老が村の運営も祭典の運営をも実権を持っている。須走という村が富士山信仰と共にあり、それと共に発展してきたが故にそのような性格を形作ったのであろう。

富士山は、1964年に国立公園に指定され、年間観光客3,000万人、登山者数約30万人という一大観光地でもある。登山家の田部井淳子さんによると、5歳の子から100歳のお年寄りまで登山する世界に珍しい山だそうである。

それでは、須走と小山町の祭りにはどのようなものがあり、それらに富士学校がどのような関わりを持っているかを概観しよう。

① 富士浅間神社の祭典

年間の祭典は大祭、中祭、小祭、そして雑祭を含めると年間30を数え、毎月1日と15日に行われる月次祭を含めると一ヶ月に4回ないし5回の割合で祭典が行われている。これらの祭典は神社が主催して、氏子が参加するものが殆どであり、富士浅間神社が須走の氏神であることを物語っている。

大祭は、2月17日の祈年祭：「としごいのまつり」で、年の初めに当たって五穀豊穰と国家安泰を祈る祭りで、今は春祭りとして定着している。

5月7日の例祭と神幸祭：富士山噴火の鎮火祈禱を行って治まった日を祭日にした。(現在では5月5日) 4日のパレード、前夜祭、5日の子供神輿の渡御、神幸祭、御分霊遷座祭、神輿渡御、夜の演芸会、6日が後日祭(所謂直会)、反省会、御礼で終わる。

11月23日の新嘗祭：秋の収穫感謝祭

家内の記憶によると、小学校の子供達が、クラス毎に子供御輿を作成して、この祭りに参加したそう。娘が小学校1年のことであり、夏には転属したので、翌年以降及び、現在の状況は不明である。

富士学校は、5月5日の例祭に教導団音楽隊による音楽演奏、音鼓衆と言う太鼓隊による太鼓演奏、婦人自衛官による流し踊りの協力を行っている。

② 開山式、閉山式(浅間神社の中祭としても位置づけられている。)

主催は、小山町と観光協会であり、富士登山者の安全を祈願することを主たる目的とし、山を開いている間風雨の障りがないようにそして里と山で営業している旅館や山室経営者の人々が繁栄することを願う。嘗ては7月15日に開山式を行い、富士吉田の火祭りが行われる8月26日が山じまいの基準になった。開山式には前述の太鼓隊の太鼓演奏協力を行っている。

③ 金太郎春祭りと夏祭り

小山町は金太郎の町である。坂田金時こと金太郎が誕生したのがここ小山町である。足柄山の金太郎は桃太郎と並ぶ日本の昔話に出てくる英雄の双璧である。小山町内には金太郎の伝説地が多くある。金太郎のモデルとなったのが、下毛野公時である。

五月の連休の頃の春祭りや夏の終わりの頃の夏祭りで、金太郎の町をアピールしている。春祭りは金時公園で、夏祭りは、鮎沢川沿いで色々なイベントが繰り広げられる。富士学校は夏祭りに音楽隊が演奏協力するほか富士駐屯地曹友会が給食支援やどんぶらこ支援を行っている。

④ 須走夏祭り

本年は8月6日に行われた。音楽隊と太鼓隊の支援の他曹友会による仮装パレードや模擬売店の支援を行っている。

⑤ 須走フェスタこのはなさくや姫 10月14日

平成12年度須走活性化事業のための新規事業である。現在調整中であるので、詳細は省略する。

⑥ その他

足柄峠笛まつり

後三年の役に際し、新羅三郎義光が兄義家を助けるため足柄峠に露営したとき、義光の笙の師豊原時元の一子時秋が後を追ってきた。義光は「我は武のため、貴殿はこの道のため」と諭し、笙の相伝の秘曲「大倉調入調」を足柄峠で伝えたと言われる。この故事にちなみ毎年9月の第2日曜日に開催している。（古今著聞集等）